

子供のスポーツ活動を支援する保護者の負担感と その影響要因

—サポートシステムの構築に向けた基礎的研究—

渋谷崇行*

抄録

本研究の目的は、保護者の支援や負担感を測定する尺度を作成して、保護者の支援活動や負担感の実態を把握することであった。調査1では保護者の支援尺度を構成する項目群を選定することを目的とした。また、それら項目群の分類を、KJ法を用いて行った。調査2では調査1で選定された項目群を用いて、保護者の支援尺度を作成することを目的とした。さらに、保護者の支援尺度を構成する各下位尺度の属性間比較を行った。

調査1では、スポーツ活動における保護者の子供への支援として、「洗濯・食事」「送迎」「時間供与」「技術向上」「応援」「周囲との交流」「出費」「種目理解」「役割・当番」という9個のカテゴリーが抽出された。調査2では、各カテゴリーを構成する記述内容を項目とした質問紙調査を行い、そこから得られたデータについて因子分析を行った。検討の結果、「休日の応援参加」「食事・洗濯」「手伝い・当番」「送迎」「競技理解」「技術向上」「出費」に関わる7因子が抽出され、これらを下位尺度とする保護者の支援尺度が作成された。また、各下位尺度を構成する項目群の α 係数（信頼性係数）を求めたところ、保護者の支援尺度の内的整合性は高いことが示された。さらに、保護者の支援内容について属性間による差の検討を行ったところ、以下の内容が示唆された。

- 1) 全般的に母親の方が父親よりも多くの負担を抱えていた。
- 2) 子供と同居の場合は日常的な支援である洗濯や食事の準備、送迎などの支援に対する負担感が大きいことが示された。一方、別居の場合は住居費や食費などの出費への負担感が大きいことが示された。
- 3) 保護者の競技経験の違いによって、支援の頻度や負担感の大きさが異なることが考えられた。
- 4) 子供の競技種目の違いによって保護者に求められる支援や有する負担感が異なるようであった。具体的には、練習や試合における手伝いや当番は野球において高く、出費は水泳やサッカーにおいて高かった。

キーワード：保護者、負担感、サポートシステム、青少年スポーツ、支援尺度

* 桐蔭横浜大学 〒225-8503 神奈川県横浜市青葉区鉄町 1614

Burden on the parents supporting sports activities of their children

—Basic study for the construction of the support system—

Takayuki Shibukura *

Abstract

The purposes of this study were to construct a scale to measure frequencies of the support behaviors and feelings of the burden on the parents supporting sports activities of their children and to grasp the actual state of their burden.

First, it was intended to select the items that constituted the support scale for parents in research one. The results of KJ-method, nine categories were extracted as the support for their children participating sports activities. Second, it was conducted to construct the support scale for parents in research two. The subject were 320 father and 363 mother. They were requested to complete a questionnaire that consisted of the support items selected in research one. As a result of factor analysis, it was revealed that the support scale for parents consisted of seven factors as follows; “watching games on holidays”, “washing clothes and offering meals”, “holding a shift”, “taking children to and from the place”, “understanding an athletic event”, “helping with technical improvement” and “spending money”. And the reliability of the scale was examined through the split-half method. Finally, the examination of the difference between some attributes was carried out using this support scale for parents.

Key Words : parents, burden, support system, youth sports, support scale

* Toin University of Yokohama 1614, Kurogane-cho, Aoba-ku, Yokohama, Kanagawa, Japan
225-8503

1. はじめに

子供のスポーツ参加に保護者が果たす役割は大きい。多くのクラブでは保護者会が組織され、保護者は役割を担って支援活動を行っている。ところが、そうした活動に負担感を持つ保護者は少なくない（永井，2010；杉本，2015）。子供にとって重要な人的環境要因である保護者が、適応的に支援活動を行えることは重要である。本研究では、保護者の支援や負担感を測定する尺度を作成して、保護者の支援活動や負担感の実態を把握する。

本研究を行うことの意義は次の2点である。①保護者の負担感やそれに伴うトラブルは現場での問題意識は高いが、それらがこれまで研究テーマとして取りあげられることはなかった。本研究テーマは、実践現場の要請に応じ、かつ未開拓の分野を切りひらくものである。②本研究による基礎的研究を進展させ、保護者のサポートシステムを構築することを見込んでいる。保護者のメンタルヘルスが良好に保たれることで保護者は快適に支援活動を行え、子供も良好な人的環境の中でスポーツ活動を行えるようになる。

2. 目的

本研究の目的は、保護者の支援や負担感を測定する尺度を作成して、保護者の支援活動や負担感の実態を把握することであった。そのため、本研究では以下の2つの調査を行った。調査1では保護者の支援尺度を構成する項目群を選定することを目的とした。また、それら項目群の分類を、KJ法（川喜多，1967）を用いて行った。調査2では調査1で選定された項目群を用いて、保護者の支援尺度を作成することを目的とした。また、保護者の支援尺度を構成する各下位尺度の属性間比較を行った。

3. 調査1

1) 目的

保護者の支援尺度を構成する項目群を選定した。また、それら項目群の分類を、KJ法（川喜多，1967）を用いて行った。

2) 方法

(1) 調査対象者 調査対象者は、3県のスポーツ活動を行っている子供を持つ保護者161名（男性46名，30歳代12名，40歳代28名，50歳代6名；女性115名，20歳代1名，30歳代33名，50歳代11名）であった。

(2) 調査内容 スポーツ活動における保護者の子供に対する支援として、どのようなことを行っているのかを自由記述形式で回答を求めた。具体的には、「お子様のスポーツ活動全般に対して、あなたが行っている支援にはどのようなものがありますか。例にならってあなたがお子さんのスポーツ活動に対して行っている主な支援をご回答ください」という教示文を提示した。

(3) 調査時期 調査は2015年9月から10月にかけて実施された。

3) 結果と考察

調査対象者から得られた自由記述は、全体で843個であった。それらを1つの文章が単一の意味内容を示すように区切り、語尾に統一感を持たせるように修正を施した。さらに、スポーツ活動における保護者の子供に対する支援とは無関係と思われる記述を削除し、最終的に729個の記述データが得られた。これらのデータは、KJ法（川喜多，1967）を用いて類似した内容にまとめられ、それらを単位とするグループを構成し、さらにカテゴリー化された。最終的に、スポーツ活動における保護者の子供に対する支援は9つのカテゴリーに分類された。すなわち、「洗濯・食事」「送迎」「時間供与」「技術向上」「応援」「周囲との交流」「出費」「種目理解」「役割・当番」というカテゴリーが抽出された（表1）。なお、これらの作業は、スポーツ心理学を専門とする研究者1名と学部学生2名の合計3名によって進められた。以下では、最終的に抽出されたカテゴリーを説

表1 保護者の支援のカテゴリー名とその説明

カテゴリー	説明
洗濯・食事	ユニフォームの洗濯等や食事の提供に関すること
送迎	練習や試合時の送迎に関すること
時間供与	子供の活動に自分の時間を費やすこと
技術向上	子供が上達するために練習を手伝ったりアドバイスをしたりすること
応援	試合や練習会場に足を運び応援すること
周囲との交流	コーチや保護者と交流を保つこと
出費	道具や遠征費等のために出費すること
種目理解	子供の活動種目を理解しようと努めること
役割・当番	試合や練習等で役割や当番を担うこと

明する。

(1) 洗濯・食事 このカテゴリーは、「ユニフォームの洗濯等や食事の提供に関する」と説明された。具体的な記述例としては、「ユニフォームや練習着の洗濯をすること」や「子供の弁当を作る」と等の内容があった。

(2) 送迎 このカテゴリーは、「練習や試合時の送迎に関する」と説明された。具体的な記述例としては、「試合の時に子供の送迎をすること」や「早朝や夜までの練習の時に子供の送迎をすること」等の内容があった。

(3) 時間供与 このカテゴリーは、「子供の活動に自分の時間を費やすこと」と説明された。具体的な記述例としては、「子供の活動を中心に自分のスケジュールを決めること」や「休日を子供の活動に費やすこと」等の内容があった。

(4) 技術向上 このカテゴリーは、「子供が上達するために練習を手伝ったりアドバイスをしたりすること」と説明された。具体的な記述例としては、「子供に技術指導を行うこと」や「子供の自主練習に付き合うこと」等の内容があった。

(5) 応援 このカテゴリーは、「試合や練習会場に足を運び応援すること」と説明された。具体的な記述例としては、「子供の練習をみるために練習会場に行くこと」や「大会や試合で応援をすること」等の内容があった。

(6) 周囲との交流 このカテゴリーは、「コーチや保護者と交流を保つこと」と説明された。具体的な記述例としては、「コーチと交流を持つこと」や「子供のチームメイトの保護者と交流を持つこと」等の内容があった。

(7) 出費 このカテゴリーは、「道具や遠征費等のために出費すること」と説明された。具体的な記述例としては、「子供のスポーツ用具を購入すること」や「遠征費(交通費等)や合宿費を支払うこと」等の内容があった。

(8) 種目理解 このカテゴリーは、「子供の活動種目を理解しようと努めること」と説明された。具体的な記述例としては、「子供の活動種目のルールを勉強すること」や「子供の活動種目について理解しようとするいろいろな調べること」等の内容があった。

(9) 役割・当番 このカテゴリーは、「試合や練習等で役割や当番を担うこと」と説明された。具体的な記述例としては、「会計などの事務的な仕事を行うこと」や「試合や練習の会場でコーチや選手等の飲食の準備を行うこと」等の内容があった。

4. 調査 2

1) 目的

調査 1 で選定された項目群を用いて、保護者の支援尺度を作成した。また、保護者の支援尺度を構成する各下位尺度の属性による差を検討した。

2) 方法

(1) 調査対象者 高校時に学校運動部活動や地域スポーツクラブ等でスポーツ活動を行っていた経験のある K 県大学生の保護者 950 名のうち、有効回答者 683 名(男性 320 名, 女性 363 名; 30 歳代 3 名, 40 歳代 331 名, 50 歳代 326 名, 60 歳代以上 23 名; 有効回収率 71.9%) を分析対象とした。なお、支援対象である子供のスポーツ種目は 19 種目であった。

(2) 調査内容 調査 1 によって保護者の支援として抽出された 9 つのカテゴリーについて、それぞれの内容を表す 3 項目から 6 項目を本調査で使用する項目群とした。全部で 40 項目であった。回答は、保護者の支援項目が示す内容をどの程度行ってきたと思うか(実施頻度)、また、どの程度負担だったと感じるか(負担度)の 2 種を求めた。すなわち、実施頻度については、「全くなかった(1 点)」から「非常に多くあった(5 点)」までの 5 段階で評定するよう求めた。また、負担度については、「負担ではなかった(1 点)」から「かなり強く負担であった(5 点)」までの 5 段階で評定するよう求めた。なお、尺度作成のための因子分析には実施頻度の得点を使用した。負担度の得点は属性間の比較に使用した。

(3) 調査時期 調査は 2015 年 11 月から 12 月にかけて実施された。

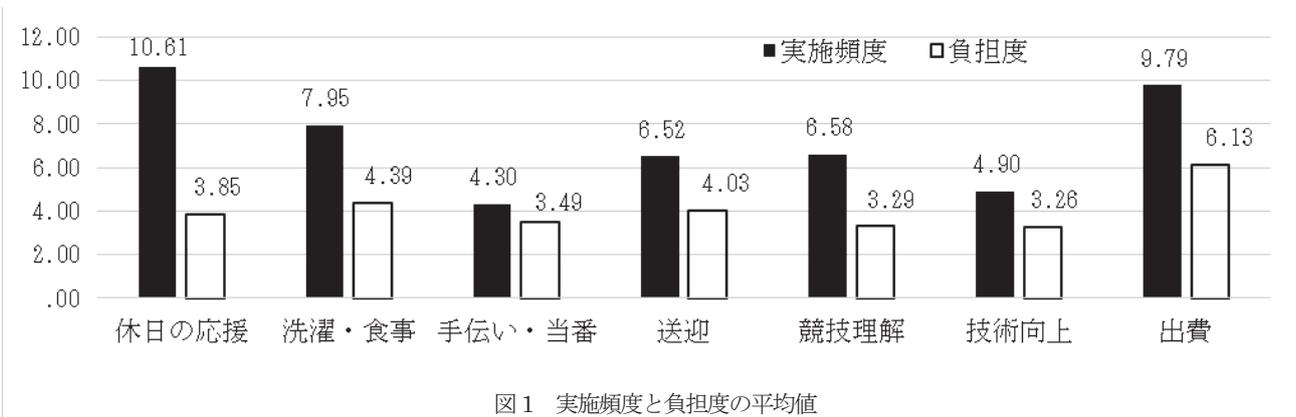
(4) 調査方法 調査依頼の後、受諾済みの大学運動部顧問に質問紙を送付した。大学運動部顧問から運動部代表学生(マネージャー)、各部員を介して質問紙が保護者に配布された。なお、質問紙には研究目的、方法、効果、危険性、プライバシーの保護等について記された調査説明書と研究同意確認書が添付された。すなわち、本調査の趣旨に同意する保護者のみが質問紙に回答するようになっていた。調査は無記名方式で実施した。質問紙の回収は保護者から各部員、運動部代表学生を介して行われた。また、回収の際には質問紙を厳封することとし、記入済みの回答が他者の目に留まらぬよう配慮した。

3) 結果と考察

(1) 因子分析 保護者の支援を表す 40 項目に対して主因子法、バリマックス回転による因子分析を行った。その結果、固有値 1.0 以上の基準で 7 因子が得られた。そこで、因子負荷量が .40 未満の項目、

表2 保護者の支援の因子分析結果

因子	no.	項目	因子							h ²
			F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	
休日の応援	40.	大会や試合で応援をすること.	.84	.13	.08	.14	.15	.10	.16	.81
	11.	子供の試合をみるために試合会場に行くこと.	.83	.11	.06	.13	.17	.08	.18	.79
	37.	休日を子供の活動に費やすこと.	.65	.14	.21	.15	.24	.08	.18	.60
洗濯・食事	12.	子供の弁当を作ること.	.09	.95	.07	.07	.01	-.02	.11	.93
	1.	ユニフォームや練習着の洗濯をすること.	.07	.76	.08	.17	-.03	-.10	.16	.65
	24.	スポーツ選手としての栄養に考慮して食事を作ること.	.17	.68	.16	.10	.16	-.02	.15	.58
手伝い・当番	29.	練習の当番で役割を持つこと.	.09	.11	.87	.14	.11	.09	.12	.83
	28.	クラブの練習の手伝いを行うこと.	.06	.08	.64	.18	.09	.27	.08	.53
	19.	試合の当番で役割を持つこと.	.26	.23	.53	.19	.22	.10	.19	.53
送迎	2.	試合の時に子供の送迎をすること.	.14	.16	.14	.78	.06	.21	.16	.75
	20.	早朝や夜までの練習の時に子供の送迎をすること.	.18	.21	.18	.73	.09	.19	.23	.74
	33.	試合の時などに子供のチームメイトの送迎をすること.	.18	.07	.40	.58	.20	.17	.12	.62
競技理解	14.	子供の活動種目について理解しようとするいろいろ調べること.	.20	.08	.05	.08	.80	.23	.15	.77
	18.	子供の活動種目のルールを勉強すること.	.15	.05	.14	.12	.71	.18	.14	.61
	36.	子供の活動種目に関わる情報を得ようと雑誌等をみること.	.31	.02	.23	.05	.47	.13	.10	.40
技術向上	3.	子供に技術指導を行うこと.	.02	-.09	.09	.13	.09	.82	.06	.72
	25.	子供に活動種目についてアドバイスをすること.	.17	-.08	.17	.11	.26	.68	.05	.61
	16.	子供の自主練習に付き合うこと.	.09	.03	.19	.25	.22	.53	.08	.45
出費	9.	部費(クラブ運営費)を支払うこと.	.17	.12	.13	.10	.07	.04	.77	.67
	21.	遠征費(交通費等)や合宿費を支払うこと.	.11	.19	.12	.16	.13	.02	.65	.52
	5.	子供のスポーツ用具を購入すること.	.23	.12	.06	.16	.19	.17	.52	.43
固有値			2.32	2.22	1.92	1.86	1.80	1.79	1.65	
寄与率(%)			11.06	10.57	9.15	8.84	8.55	8.51	7.86	
累積寄与率(%)			11.06	21.63	30.79	39.63	48.18	56.69	64.55	



および他の因子に.30以上の因子負荷量を示す項目を除去し、7因子基準で再び主因子法、バリマックス回転による因子分析を行った(表2)。5因子の累積寄与率は64.55%であった。

第1因子は休日に大会や試合を応援しに行くことを表す「休日の応援」に関する因子(3項目)、第2因子は子供の弁当を作ったり、ユニフォームの洗濯をしたりすることを表す「洗濯・食事」に関する因子(3項目)、第3因子は試合や練習の手伝いや当番の役割を担うことを表す「手伝い・当番」に関する因子(3項目)、第4因子は試合や練習時に子供やチームメイトを送迎することを表す「送迎」に関する因子(3項目)、第5因子は子供の競技種目について理解を深めようとすることを表す「競技理解」に関する因子(3項目)、第6因子は子供の技

術向上のためにアドバイスや指導を行うことを表す「技術向上」に関する因子(3項目)、第7因子は用具の購入や部費等で支払いをすることを表す「出費」に関する因子(3項目)であった。以上のように、保護者が行う支援として「休日の応援」「洗濯・食事」「手伝い・当番」「送迎」「競技理解」「技術向上」「出費」に関わる7因子が抽出され、各因子において因子負荷量.40以上の項目で構成される7下位尺度、21項目からなる保護者の支援尺度が作成された。

(2) 保護者の支援尺度の信頼性の検討 保護者の支援尺度について、各下位尺度を構成する項目群のα係数(信頼性係数)を求めた。その結果、「休日の応援」が.88、「洗濯・食事」が.86、「手伝い・当番」が.78、「送迎」が.85、「競技理解」が.78、「技術向

表3 父親と母親の比較 (実施頻度)

下位尺度	父親 (N=320)	母親 (N=363)	t値
休日の応援	9.94 (3.46)	11.21 (3.34)	-4.86 ***
洗濯・食事	4.88 (2.82)	10.66 (3.38)	-24.07 ***
手伝い・当番	4.34 (2.44)	5.27 (2.82)	-4.59 ***
送迎	6.33 (3.20)	6.68 (3.53)	-1.34
競技理解	6.54 (3.04)	6.62 (2.90)	-.34
技術向上	5.46 (2.75)	4.40 (1.94)	5.87 ***
出費	9.23 (3.04)	10.28 (2.37)	-5.06 ***

()内は標準偏差 *p<.05, **p<.01, ***p<.001.

表4 同居と別居の比較 (実施頻度)

下位尺度	同居 (N=533)	別居 (N=150)	t値
休日の応援	10.42 (3.58)	11.30 (2.86)	-2.77 **
洗濯・食事	8.62 (4.23)	5.57 (3.41)	8.11 ***
手伝い・当番	4.80 (2.73)	4.96 (2.53)	-.64
送迎	7.05 (3.36)	4.61 (2.72)	8.16 ***
競技理解	6.49 (3.01)	6.90 (2.81)	-1.49
技術向上	5.01 (2.51)	4.52 (2.02)	2.18 *
出費	9.76 (2.85)	9.88 (2.40)	-.46

()内は標準偏差 *p<.05, **p<.01, ***p<.001.

上」が.78, 「出費」が.76であった。このように、信頼性係数の値は非常に高い水準にあり、各下位尺度が一貫性の高い項目で構成されていることが示された。したがって、本研究における保護者の支援尺度の内的整合性は高いと考えることができる。

(3) 保護者の支援尺度得点の全体的傾向 保護者の支援尺度得点の全体的傾向を検討するため、保護者の支援を表す7下位尺度のそれぞれについて、実施頻度と負担度の平均得点を算出した(図1)。得点化の方法は、各下位尺度に含まれる項目の合計得点を用いた。実施頻度において平均値が比較的高かった内容は「休日の応援(10.61)」「出費(9.79)」であり、比較的低かった内容は「手伝い・当番(4.30)」「技術向上(4.90)」であった。また、負担度において平均値が高かった内容は「出費(6.13)」「洗濯・食事(4.39)」であり、比較的低かった内容は「技術向上(3.26)」「競技理解(3.29)」であった。図1を見る限り、「休日の応援」について実施頻度は高く評価されているが、負担度はそれほど高くないよ

うである。一方、「出費」については実施頻度、負担度とも高く評価されている。このことから、全体的傾向として、用具の購入や部費等で支払いをすることは保護者にとって負担の大きい支援になっているようである。

(4) 保護者の支援尺度得点の属性間による比較(実施頻度) 保護者の支援内容の実施頻度について属性間による差を検討するため、保護者の支援を表す7下位尺度のそれぞれについて、以下の比較を行った。すなわち、父親と母親との比較、子供が保護者と同居の場合と別居の場合との比較をt検定により行った。また、保護者の競技経験別の比較(子供と同種目、子供と別種目、競技経験なし)、子供の競技種目別の比較(比較的割合の高かった種目である、バスケットボール、ハンドボール、野球、サッカー、水泳の5種目を取り上げた)を一元配置分散分析によって行った。得点化の方法は、各下位尺度に含まれる項目の実施頻度得点の合計を用いた。なお、分析結果を表3から表6に示した。

①父親と母親との比較 有意差が認められた支援は、「休日の応援」($t=4.86, p<.001$)、「洗濯・食事」($t=24.07, p<.001$)、「手伝い・当番」($t=4.59, p<.001$)、「技術向上」($t=5.87, p<.001$)、「出費」($t=5.06, p<.001$)であった。これらのうち、「技術向上」は父親の方が有意に得点は高かった。また、「休日の応援」「洗濯・食事」「手伝い・当番」「出費」は母親の方が有意に得点は高かった。これらの結果から、技術的なアドバイスや自主練習の手伝い等は父親の方が多く行うものの、その他の日常的な支援については母親の方が多く行うということが考えられた。

②同居と別居との比較 有意差が認められた支援は、「休日の応援」($t=2.77, p<.01$)、「洗濯・食事」($t=8.11, p<.001$)、「送迎」($t=8.16, p<.001$)、「技術向上」($t=2.18, p<.05$)であった。これらのうち、「洗濯・食事」「送迎」「技術向上」は同居の方が有意に得点は高かった。また、「休日の応援」については別居の方が有意に得点は高かった。これらの結果について、同居の場合は子供と一緒に暮らすことになるので、日常的な支援である洗濯や食事の準備、送迎などの支援を多く行っていることが考えられた。また、技術向上に向けた支援も行いやすい環境にあるということが考えられた。一方、別居の場合は子供と別れて暮らしているため、休日に試合等がある際には子供の様子を見たり応援したりするために積極的に足を運ぶということが考えられた。

③保護者の競技経験別の比較 有意差が認められた支援は、「休日の応援」($F=3.91, p<.05$)、「洗濯・食事」($F=15.62, p<.001$)、「技術向上」($F=50.05,$

表5 保護者の競技経験別の比較（実施頻度）

下位尺度	子供と同種目 (N=135)	子供と別種目 (N=395)	競技経験なし (N=153)	F値
休日の応援	11.32 (2.83)	10.52 (3.52)	10.24 (3.70)	3.91 * 3<1*
洗濯・食事	6.19 (3.81)	8.26 (4.29)	8.71 (4.14)	15.62 *** 1<2***, 1<3***
手伝い・当番	4.73 (2.54)	4.88 (2.69)	4.81 (2.82)	.18
送迎	6.44 (3.01)	6.60 (3.39)	6.37 (3.69)	.29
競技理解	6.87 (3.08)	6.62 (3.00)	6.24 (2.74)	1.70
技術向上	6.63 (3.01)	4.54 (1.94)	4.30 (2.24)	50.05 *** 2<1***, 3<1***
出費	9.81 (2.46)	9.71 (2.82)	9.99 (2.84)	.58

()内は標準偏差

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

表6 子供の種目別の比較（実施頻度）

下位尺度	バスケット1) (N=86)	ハンド2) (N=103)	野球3) (N=266)	サッカー4) (N=84)	水泳5) (N=56)	F値
休日の応援	11.41 (3.39)	11.02 (3.09)	11.17 (2.95)	10.58 (3.27)	10.89 (3.39)	.88
洗濯・食事	8.29 (4.41)	8.88 (4.19)	7.55 (4.37)	8.08 (4.30)	8.05 (4.14)	1.90
手伝い・当番	4.66 (2.60)	4.91 (2.72)	5.54 (2.92)	4.25 (2.31)	4.00 (2.13)	6.60*** 4<3**, 5<3**
送迎	7.29 (3.49)	7.43 (3.45)	6.00 (3.30)	5.89 (3.25)	7.86 (3.41)	7.47*** 3<1*, 3<2**, 4<2*, 3<5**, 4<5**
競技理解	6.48 (3.02)	7.16 (3.19)	6.63 (2.87)	6.94 (2.92)	6.71 (2.96)	.86
技術向上	4.84 (2.37)	4.68 (2.13)	5.10 (2.65)	4.94 (2.51)	5.16 (2.33)	.69
出費	9.94 (2.61)	9.81 (2.71)	9.75 (2.55)	10.90 (2.64)	10.54 (2.97)	3.78** 2<4*, 3<4**

()内は標準偏差

*p<.05 **p<.01 ***p<.001

p<.001)であった。「休日の応援」は子供と同種目の方が競技経験なしよりも有意に得点は高かった。これらのうち、「洗濯・食事」は子供と別種目、競技経験なしの方が子供と同種目よりも有意に得点は高かった。また、「技術向上」は子供と同種目の方が子供と別種目、競技経験なしよりも有意に得点は高かった。これらの結果について、子供と同種目の競技経験がある保護者は子供の活動への理解や関心も高いことが予想され、そうしたことが休日の応援や技術向上への支援を多く行うことにつながっていることが考えられる。

④子供の競技種目別の比較 有意差が認められた支援は、「手伝い・当番」(F=6.60, p<.001), 「送迎」(F=7.47, p<.001), 「出費」(F=3.78, p<.01)であった。これらのうち、「手伝い・当番」は野球の方がサッカー、水泳よりも有意に得点は高かった。「送

迎」は水泳、ハンドボールの方が野球、サッカーよりも、バスケットボールの方が野球よりも、それぞれ有意に得点は高かった。また、「出費」はサッカーの方がハンドボール、野球よりも有意に得点は高かった。これらの結果から、種目間で保護者に求められる支援に特徴があることが考えられた。具体的には、練習や試合の手伝いや当番は野球において多いこと、また、送迎はハンドボールや水泳において多いこと、さらには、出費はサッカーや水泳において多いことが考えられた。

(5) 保護者の支援尺度得点の属性間による比較(負担度) 保護者の支援内容の負担度について属性間による差を検討するため、保護者の支援を表す7下位尺度のそれぞれについて、実施頻度の場合と同様の比較分析を行った。ただし、得点化の方法は、各下位尺度に含まれる項目の負担度得点の合計を用

表7 父親と母親の比較 (負担度)

下位尺度	父親 (N=320)	母親 (N=363)	t値
休日の応援	3.78 (1.75)	3.91 (1.83)	-0.95
洗濯・食事	3.56 (1.43)	5.13 (2.34)	-10.35 ***
手伝い・当番	3.42 (1.36)	3.85 (1.84)	-3.45 *
送迎	3.84 (1.82)	4.19 (2.01)	-2.41 **
競技理解	3.26 (1.03)	3.32 (0.95)	-0.79
技術向上	3.29 (1.05)	3.23 (0.75)	.86
出費	5.55 (2.70)	6.65 (2.97)	-5.03 ***

()内は標準偏差 *p<.05, **p<.01, ***p<.001.

表8 同居と別居の比較 (負担度)

下位尺度	同居 (N=533)	別居 (N=150)	t値
休日の応援	3.80 (1.72)	4.01 (2.02)	-1.23
洗濯・食事	4.54 (2.15)	3.87 (1.93)	3.48 **
手伝い・当番	3.58 (1.53)	3.91 (2.01)	-2.18 *
送迎	4.15 (1.95)	3.59 (1.76)	3.19 **
競技理解	3.26 (0.92)	3.41 (1.19)	-1.71
技術向上	3.26 (0.91)	3.26 (0.86)	.03
出費	5.98 (2.83)	6.69 (3.09)	-2.68 **

()内は標準偏差 *p<.05, **p<.01, ***p<.001.

いた。なお、分析結果を表7から表10に示した。

①父親と母親との比較 有意差が認められた支援は、「洗濯・食事」(t=10.35, p<.001), 「手伝い・当番」(t=3.45, p<.05), 「送迎」(t=2.41, p<.01), 「出費」(t=5.03, p<.001)であった。これら全ての内容について、母親の方が有意に得点は高かった。これらの結果から、全般的に母親の方が父親よりも多くの負担を抱えていることが考えられた。

②同居と別居との比較 有意差が認められた支援は、「洗濯・食事」(t=3.48, p<.01), 「手伝い・当番」(t=2.18, p<.01), 「送迎」(t=3.19, p<.01), 「出費」(t=2.68, p<.01)であった。これらのうち、「洗濯・食事」「送迎」は同居の方が有意に得点は高かった。また、「手伝い・当番」「出費」については別居の方が有意に得点は高かった。これらの結果について、同居の場合は日常的な支援である洗濯や食事の準備、送迎などの支援を多く行っているため、それらに対する負担感も同様に大きくなっていることが考えられた。一方、別居の場合は子供が遠方で活動していることが予想されるため、練習や試合の手伝

いや当番をこなすのは負担感が大きいことが考えられた。さらに、住居費や食費などの出費も別居の保護者においては大きいことが考えられた。

③保護者の競技経験別の比較 有意差が認められた支援は、「洗濯・食事」(F=9.88, p<.001), 「競技理解」(F=3.51, p<.05), 「出費」(F=3.96, p<.05)であった。これらのうち、「洗濯・食事」は競技経験なしの方が子供と同種目、子供と別種目よりも有意に得点は高かった。「競技理解」は競技経験なしの方が子供と同種目よりも有意に得点は高かった。また、「出費」は競技経験なしの方が子供と別種目よりも有意に得点は高かった。これらの結果について、競技経験がない保護者の場合は、子供が行っている競技やスポーツそのものに対して精通しているわけではないので、競技理解において苦勞していることが考えられた。

④子供の競技種目別の比較 有意差が認められた支援は、「手伝い・当番」(F=3.62, p<.01), 「送迎」(F=2.90, p<.05), 「出費」(F=5.51, p<.001)であった。これらのうち、「手伝い・当番」は野球の方がハンドボールよりも有意に得点は高かった。「送迎」は水泳の方が野球、サッカーよりも有意に得点は高かった。また、「出費」は水泳の方がハンドボール、野球よりも、サッカーの方がハンドボールよりも、それぞれ有意に得点は高かった。これらの結果から、実施頻度の場合と同様に、種目間で保護者が負担と感じる支援に特徴があることが考えられた。具体的には、練習や試合の手伝いや当番は野球において負担感が大きいこと、あるいは、送迎は水泳において負担感が大きいこと、さらには、出費はサッカーや水泳において負担感が大きいことが考えられた。

5. 結論と今後の課題

本研究の目的は、保護者の支援尺度を作成すること、および、保護者の支援内容の属性による差を検討することであった。調査1では、スポーツ活動における保護者の子供に対する支援として、「洗濯・食事」「送迎」「時間供与」「技術向上」「応援」「周囲との交流」「出費」「種目理解」「役割・当番」という9個のカテゴリーが抽出された。調査2では、各カテゴリーを構成する記述内容を項目とした質問紙調査を行い、それによって得られたデータについて因子分析を行った。検討の結果、「休日の応援」「洗濯・食事」「手伝い・当番」「送迎」「競技理解」「技術向上」「出費」に関わる7因子が抽出され、これらを下位尺度とする保護者の支援尺度が作成された。また、各下位尺度を構成する項目群のα係

表9 保護者の競技経験別の比較（負担度）

下位尺度	子供と同種目 (N=135)	子供と別種目 (N=395)	競技経験なし (N=153)	F値
休日の応援	3.68 (1.57)	3.82 (1.73)	4.06 (2.08)	1.69
洗濯・食事	3.73 (1.33)	4.46 (2.16)	4.80 (2.43)	9.88 *** 1<2**, 1<3***
手伝い・当番	3.47 (1.29)	3.64 (1.65)	3.82 (1.90)	1.56
送迎	3.89 (1.72)	4.00 (1.85)	4.22 (2.26)	1.18
競技理解	3.17 (0.54)	3.27 (0.99)	3.46 (1.24)	3.51 * 1<3*
技術向上	3.24 (0.72)	3.22 (0.89)	3.40 (1.06)	2.29
出費	6.10 (2.71)	5.93 (2.91)	6.70 (2.99)	3.96 * 2<3*

()内は標準偏差 *p<.05 **p<.01 ***p<.001

表10 子供の種目別の比較（負担度）

下位尺度	バスケット1) (N=86)	ハンド2) (N=103)	野球3) (N=266)	サッカー4) (N=84)	水泳5) (N=56)	F値
休日の応援	3.92 (2.04)	3.73 (1.55)	3.94 (2.00)	3.76 (1.47)	4.16 (2.01)	.63
洗濯・食事	4.28 (1.81)	4.36 (1.81)	4.48 (2.32)	4.55 (2.36)	4.32 (2.24)	.26
手伝い・当番	3.56 (1.44)	3.34 (0.85)	3.97 (2.13)	3.46 (0.97)	3.50 (1.51)	3.62** 2<3*
送迎	4.09 (1.84)	4.28 (2.01)	3.89 (1.89)	3.77 (2.01)	4.73 (2.39)	2.90* 3<5*, 4<5*
競技理解	3.16 (0.53)	3.11 (0.46)	3.39 (1.11)	3.42 (1.17)	3.46 (1.65)	2.31
技術向上	3.27 (0.74)	3.18 (0.76)	3.28 (0.99)	3.32 (0.85)	3.45 (1.45)	.72
出費	6.06 (2.90)	5.54 (2.61)	6.06 (2.88)	6.95 (3.01)	7.45 (3.30)	5.50*** 2<4**, 2<5**, 3<5*

()内は標準偏差 *p<.05 **p<.01 ***p<.001

数（信頼性係数）を求めたところ、本研究における保護者の支援尺度の内的整合性は高いことが示された。続いて、保護者の支援内容について属性間による差の検討を行ったところ、以下の内容が示唆された。

- 1) 全般的に母親の方が父親よりも多くの負担を担っていることが考えられた。
- 2) 子供と同居の場合は日常的な支援である洗濯や食事の準備、送迎などの支援に対する負担感が大きいことが考えられた。一方、別居の場合は住居費や食費などの出費への負担感が大きいことが考えられた。
- 3) 保護者の競技経験の違いによって、支援の頻度や負担感の大きさが異なることが考えられた。
- 4) 子供の競技種目の違いによって保護者に求められる支援や有する負担感が異なることが考えられ

た。具体的には、練習や試合における手伝いや当番は野球において高く、出費は水泳やサッカーにおいて高かった。

本研究では保護者の支援の実態を部分的ではあるものの、調査結果に基づいて検討を行ってきた。このことは、これまで研究の枠組みで保護者の支援や負担感が捉えられてこなかったことを考えると、この分野における研究の発展に向けた意義は大きいといえる。しかし、本研究で作成された保護者の支援尺度は信頼性の検討は行われたが、妥当性の検討については不十分であった。今後は尺度の実用性を高めていくとともに、様々な属性による支援や負担感の違いを検討することが課題である。特に、競技レベル、競技種目、競技カテゴリー（年代）に応じた比較検討を試みたい。さらに、保護者の支援を効果的にするための各種の条件を見出すことも

課題である。特に、指導者との関係性に関わる要因を検討することにより、保護者の支援体制を効果的にするための条件整備を提案することが可能になる。今後、このような課題に取り組むことによって、子供のスポーツ活動に影響を及ぼす人的環境の整備につながる研究が活発に行われることが期待される。

参考文献

- 永井洋一（2010）賢いスポーツ少年を育てる。大修館書店：東京。
- 杉本直樹（2015）部活動指導スタートブック。明治図書：東京。
- 川喜多二郎（1967）発想法：創造性開発のために。中央公論社：東京。

この研究は笹川スポーツ研究助成を受けて実施したものです。

